

事件の概要

- 蔵書検索サービスを不便に感じた利用者が独自の検索プログラム(クローラ)を実行したところ、他の利用者からサーバにアクセスできなくなったとの苦情が図書館に殺到した。
- 図書館は警察に被害届を提出し、警察側はサイバー犯罪であると見て事件を追っていた。
- 警察は当該クローラの実行を図書館サーバへのDOS攻撃と捉え、当該利用者をDOS攻撃による業務妨害の容疑で逮捕した。
- しかし取り調べの結果、当該クローラにDOS攻撃と呼べるほどの違法性はなく、かつ当該利用者に犯行の意図も見られなかったため不起訴となった。

それぞれの問題点

- 図書館側がベンダーの話を鵜呑みにし、サーバに不具合がある可能性を十分に調査しないうちに警察に利用者を訴えてしまったこと。
- 唯一この事件を止めることができたであろうベンダーが不誠実な対応をしたこと。
- 警察も十分な調査を行わず、拙速にDOS攻撃と認定して当該利用者の逮捕に至ったこと。
- 当該利用者が独自のクローラを実行するに当たって図書館側に事前に承諾を得なかったこと。

今後の対策

- 図書館側がIT専門家の雇用等により、ITリテラシーの向上を図り今回のようなアクセス障害が発生した際に内部で解決できるような体制を整える
- 警察も同様に、ITに対する理解が不足しているため、専門家の育成等により、拙速な誤認逮捕をなくしていく。
- ITに対する理解が世間でもまだ深くない以上専門家もあらぬ疑いをかけられないように人々と密接にコミュニケーションをとっていく必要がある。

参考文献：<http://librahack.jp>